

都市計画税の導入検討に係る市民懇談会 意見交換要旨（第7回）

日時	平成31年2月2日（土） 19:00～20:30
会場	コミセンきたの 大ホール
参加者	市民6人
出席職員	市長 （政策調整部） 竹中部長、吉田次長 （企画調整課） 小池課長、企画調整課員2名

発言要旨		分類
意見	市街化調整区域の地区計画については、今後も増えていく見込みはあるのか？	まちづくり
回答	現在のところ、篠原駅前、西河原において地区計画の提案がされている。	
意見	駅前でもマンション、アパートが建設され、子どもが増えると学校の教室が足りるか心配している。	
回答	学校は計画的に整備している。	
意見	空き家が増えており、朽ちてしまっている建物もある。この対策に、都市計画税を使うことは可能なのか。都市計画も大事であるが、それ以上に空き家問題をどうにかしないと、誰も住まなくなってしまう。この問題にも財源をまわすことはできないか。	使途
回答	空き家対策としては、都市計画税の議論とは別に、市街化調整区域の既存住宅を除却し更地となった場合でも、自己用住宅を建てることのできるよう条例改正の手続きを進めている。	
意見	雨水排水対策という話があったが、農業用水路でも雨水を受けている箇所がある。そうした農業用水路の改修などにも、都市計画税は充ててもらえるのか。	使途
回答	都市計画税で対応できるものとできないものがある。農業用施設には、受益者負担のルールもあるので、都市計画税の議論とは別に、支援すべきものには支援していく。	
意見	市街化区域の割合が低いということだが、今後、大規模に増やすということはあるのか。地区計画区域を市街化編入していくのか。	まちづくり
回答	地区計画区域も市街化区域に編入していく考えであるが、それ以外にも国道8号バイパス沿いなど、平成28年3月に策定したまちづくりビジョンにおいて将来優先的に市街化区域に編入する地域を示している。	

発言要旨		分類
意見	道路整備の話があったが、北野小学校の交差点では、朝の時間帯にかなり渋滞する。	使途
回答	駅へのアクセス道路だけでなく、国道8号バイパスへのアクセス道路も検討している。新たな都市計画道路を整備しようとするれば、用地の確保も必要となるため、都市計画税を導入すれば、その財源にも充てることができる。	
意見	都市計画税収入は約3.5億円の見込みということだが、足りない分は一般財源を充当するのか。	導入(案)
回答	都市基盤整備には一般財源も充当する。本市では今まで一般財源のみで都市基盤整備を行っており、都市計画税を充当することで、負担割合を健全化しようとするものである。	
意見	思い切って時限的に税率0.3%としてはどうか。その方が都市基盤整備が早く進むだろう。	
回答	今まで導入していなかったもので、穏やかに進めた方が良いと考えている。守山市や栗東市も0.2%である。	
意見	物事は早く進めようと思えば、経費が掛かる。しかし、インターネットが普及し、情報が飛び交っている今の社会では、物事を早く進めなければ世の中が変わってしまう。基盤整備を進めれば自然と人口は増えていく。そのタイミングがずれてしまえば、いつまでも人口は増えない。	
回答	職員とともに真剣に進めている。平成21年度当時も厳しい状況だったが、庁舎を統一するなど、様々な課題を整理した。工夫をしながら、雨水幹線整備もかなり早く整備している。	
意見	次の議会に提案するということが、実施はいつからになるのか？	時期
回答	データ整理が必要となるほか、納税義務者は1月1日現在の所有者となるので、2020年度(平成32年度)課税になると見込んでいる。	